

ドウベイト配合錠を 服用される方へ

服用のてびき

 Dovato



医院・病院名

企画：ヴィーブヘルスケア株式会社／東京都港区赤坂1-8-1

DVNPPINF20001-P2001N
D3-C-0001 (V01)
作成年月2020年1月

ヴィーブヘルスケア株式会社  シオノギ製薬

はじめに

この冊子は、ドウベイト配合錠をお飲みになる方のために、この薬の特徴や服用方法、気をつけなくてはならないポイントなどについて解説したものです。

HIV感染症の治療では、感染を早期に発見し、HIVというウイルスの作用によって免疫力が低下する前に治療を開始して、体内のHIV量をできるだけ少なくすることが重要です。HIV感染症は、生涯つき合っていかなければならない病気ですが、治療方法の進歩により、現在ではHIV非感染者と同じくらいの寿命が期待できるようになりました(欧州)¹⁾。しかし、そのためには、長期にわたってきちんと薬を飲み続けることが重要です。服用開始前後の体調変化や気になることがあっても、自分の判断で服用を中止したり、薬の量を少なくしたりしないで、必ず主治医の指示に従ってください。

また、この薬について、わからないことや不安なことがあれば、主治医や薬剤師、看護師などの医療スタッフにいつでもご相談ください。

HIV：ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus)
1)引用文献：Obel N., et al. : PLoS One. 6(7) : e22698, 2011

Contents

1. ドウベイト配合錠はどことなくすり? 3
2. 服用方法は? 4
3. 服用に関して注意することは? 5
4. ドウベイト配合錠のはたらきは? 7
5. 副作用のこと 9
6. 他のくすりなどとの併用について 11
7. 服用に際して大切なことは? 13
8. 飲み忘れたときは? 14



1. ドウベイト配合錠は どことなくすり?

● こういう形・色をしています

ドウベイト配合錠は、白色の錠剤です。



ドウベイト配合錠 (実物大)



ボトル

成分：ドルテグラビルナトリウム、ラミブジンという成分が含まれています。

● 保管方法

直射日光や湿気を避け、室温(1~30℃)で保管してください。子供の手の届かないところに保管してください。

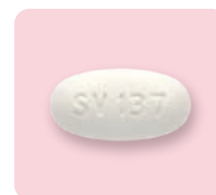


● ドウベイト配合錠を 服用する方

ドウベイト配合錠はHIV感染症の患者さんが服用するくすりです。

2. 服用方法は?

● ドウベイト配合錠は1日1回1錠服用します*



ドウベイト配合錠

×

1日1回

※主治医の指示に従って服用してください。

ドウベイト配合錠は、食事の有無にかかわらず1日1回1錠服用します。



服用間隔が同じになるよう、できるだけ一定の時刻に服用してください。

◎起床時、就寝前など、毎日の習慣に合わせて飲むとよいでしょう。



3. 服用に関して注意することは？

● ドウベイト配合錠を服用してはいけない方(禁忌)^{きんき}

ドウベイト配合錠の成分に対して**過敏症**の既往歴のある患者さんはドウベイト配合錠を服用してはいけません。



● ドウベイト配合錠を慎重に服用しなければならない方

- ① 脾炎を発症する可能性のある患者さん
- ② B型慢性肝炎を合併している患者さん
- ③ B型またはC型肝炎ウイルスに感染している患者さん
- ④ 腎機能に障害をきたしている患者さん
- ⑤ 妊娠が可能な患者さん
- ⑥ 妊婦または妊娠している可能性のある患者さん
- ⑦ 授乳をしている患者さん
- ⑧ 小児または高齢の患者さん

※上記に該当する方は主治医・薬剤師に相談してください。



4. ドウベイト配合錠のはたらきは？

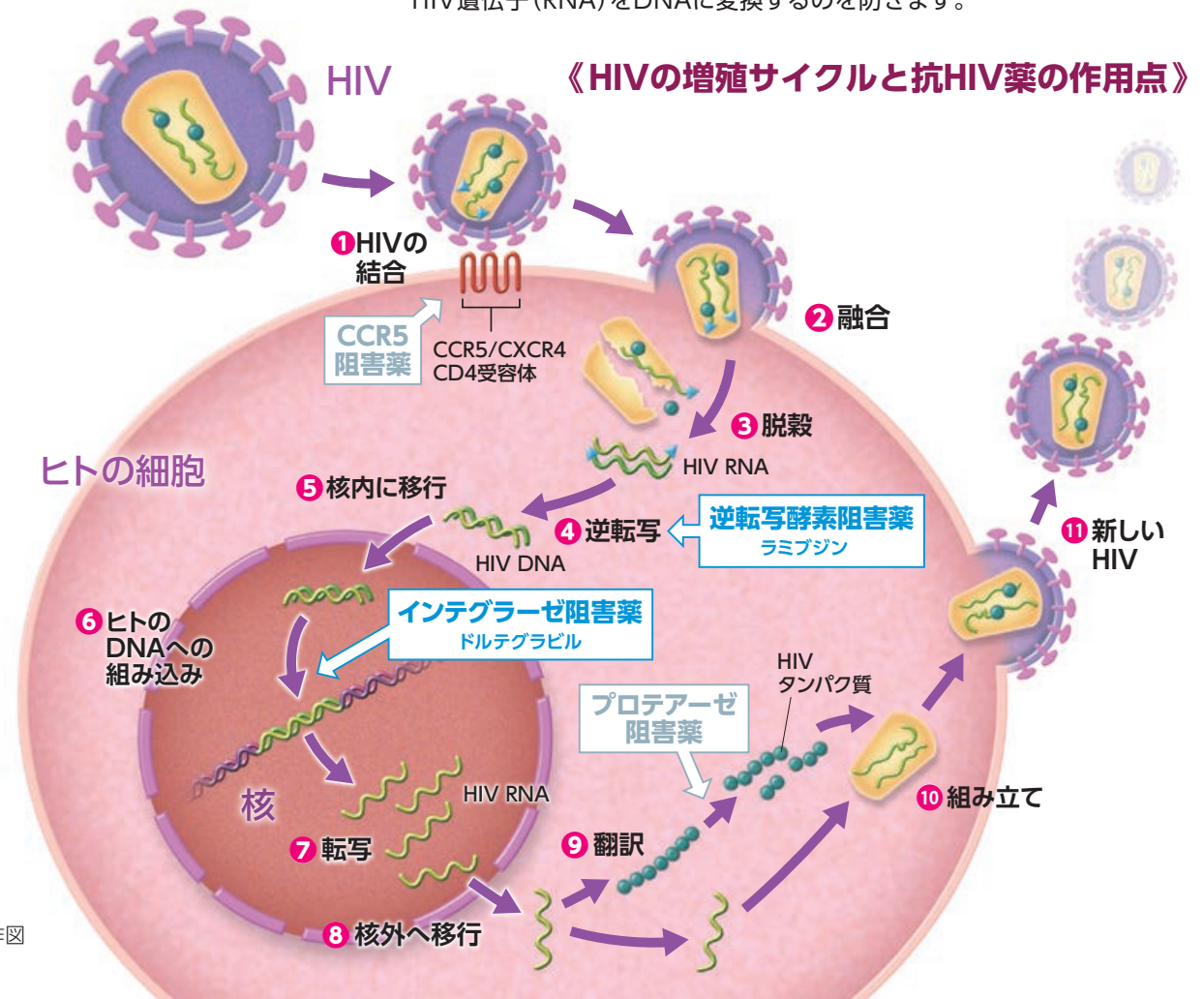
● ドウベイト配合錠は、抗HIV薬を2種類配合した2剤配合錠です

ドウベイト配合錠は、作用点の異なる2種類の抗HIV薬（ドルテグラビルナトリウム、ラミブジン）を配合することで、体内でHIVが増える過程を抑え、HIVによる患者さんの免疫力の低下を防ぐ効果があります。

HIV感染症の治療は、生涯にわたる服用が必要ですが、抗HIV薬に長期間さらされることによる患者さんの体の負担をできるだけ軽くすることが重要とされています。

これまで、HIV感染症の治療では3剤以上の抗HIV薬を組み合わせていましたが、ドウベイト配合錠は、抗HIV薬を2剤に減らしたことで、患者さんが抗HIV薬にさらされる回数を軽減し、患者さんの体の負担を軽くして治療できる可能性のある抗HIV薬です。

- ドルテグラビル（インテグラーゼ阻害薬）
DNAに変換されたHIV遺伝子が、人のDNAに入り込むのを防ぎます。
- ラミブジン（逆転写酵素阻害薬）
HIV遺伝子（RNA）をDNAに変換するのを防ぎます。



引用文献：小柳 義夫 ほか：日本臨床 68(3)：378-381, 2010より作図

5. 副作用のこと

副作用の発現には個人差があります。このくすりを服用中に何か体の異常を感じたり、いつもと違うと感じた場合は、すぐに主治医に連絡してください。

● 次の場合は主治医にすぐに連絡してください

発疹、発熱、疲労感、お腹の症状(吐き気、嘔吐、下痢など)、呼吸困難、のどの痛み、せきなど

くすりに対する過敏症・アレルギー反応の可能性があります。直ちに服用を中止する必要があります。

強い腹痛、吐き気、嘔吐、膵臓の検査値異常

膵炎の可能性があります。

だるさ、食欲不振、体重減少、お腹や呼吸の症状

乳酸アシドーシス*の可能性があります。

*血中の乳酸が過多になり酸性に傾いた状態。発症は急激。

手足の異常(脱力感、腫れ、しびれ、痛みなど)、尿の異常(尿の色が褐色、尿の量が減るなど)

横紋筋融解症*の可能性があります。

*筋肉の細胞(骨格筋細胞)の壊死、融解により筋肉の細胞成分が血液中に流出した状態。流出した大量のミオグロビンにより尿細管がふさがり急性腎不全を起こすことがある。

手足のしびれや痛み、意識の乱れ、けいれん、心臓の障害など

また、人によっては次の症状があらわれる場合もあります。

- 頭痛
- 不眠
- 不安
- めまい



6. 他のくすりなどとの併用について

他に併用するくすりやサプリメントがある場合は、主治医・薬剤師に相談してください。

● ドウベイト配合錠のくすりの相互作用(飲み合わせ)について

他のくすりやサプリメント(鉄剤、カルシウム含有製剤)、マグネシウムやアルミニウム含有製剤、あるいは健康食品(セイヨウオトギリソウ:セント・ジョーンズ・ワート含有食品)などとドウベイト配合錠と一緒に服用するとくすりの効果に影響を及ぼしたり、思わぬ副作用が出現することがあります。

そのため、薬局やドラッグストアで販売されている市販薬を含め、現在、あなたが服用しているくすり、サプリメントなどがあれば、そのすべてを主治医や薬剤師に報告して、ドウベイト配合錠との飲み合わせを確認してください。

場合によっては、他のくすりの使用をやめたり、量を減らしたり、変更したりする必要があります。

● 併用に注意すべき主な抗HIV薬

ドウベイト配合錠は2種類の抗HIV薬(ドルテグラビルナトリウム、ラミブジン)を成分として含んでいるため、作用が同じあるいは似ているくすりを重ねて飲むことがないように、また血液中のくすりの濃度に影響を与える可能性がある抗HIV薬もありますので、注意が必要です^{注)}。

注)ただし、テビケイ錠(ドルテグラビル)については、ドウベイト配合錠の投与12時間後に追加投与する場合がありますので、その場合は主治医の指示通りに飲んでください。



7. 服用に際して大切なことは？

● きちんと服用する

HIV感染症の治療ではくすりの量、飲む回数や間隔をきちんと守ることがとても大切です。なぜなら、決められた通りに服用しないと血液中のくすりの濃度が不十分になり、くすりに対する抵抗力(耐性)を持つウイルスが生まれ、くすりが効かなくなってしまうからです。

もうひとつ大切なことは、検査値や症状が良くなったからといって自己判断で服用をやめてはいけない、ということです。

治療効果を維持するために、決められたくすりを主治医の指示通りきちんと飲み続けてください。



● 副作用について

ドゥベイト配合錠を服用していて気になる症状があらわれたら、すぐに主治医に相談してください。

● 多く服用したとき(過量使用時)の対応

異常を感じたら、主治医または薬剤師に相談してください。

8. 飲み忘れたときは？

● 飲み忘れたとき

万が一、くすりを飲み忘れたときは、決して2回分を一度に飲まないでください。気付いたときに、1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

※ドゥベイト配合錠を飲み始める前に、ご自分のライフスタイルを振り返り、生活の中にどのように服薬を取り入れるか、または飲み忘れや副作用などが生じた場合の対応などについて、あらかじめ主治医や医療スタッフ(薬剤師や看護師など)と相談し、アドバイスをもらっておくと安心です。

◎ くすりを飲み忘れない工夫(例)



服薬援助

仕事が忙しい、転職した、転居したなどの理由で生活スタイルが変化すると、服用時間が変わったり、服用間隔がまちまちになったりしがちです。服用で何か困ったことがあったら、迷わず主治医や医療スタッフ(薬剤師や看護師など)に相談してください。HIV感染症について、下記のWebサイトでもご覧いただけます。

- 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター
<http://www.acc.go.jp/>
- 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター
<https://osaka.hosp.go.jp/khac/>
- エイズ予防情報ネット(API-Net)
<https://api-net.jfap.or.jp/>